

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価の結果に関する報告書  
【令和6年度分】**

**令和7年11月  
魚沼市教育委員会**

# 目 次

1 制度について .....	2
2 目的について .....	2
3 学識経験者の知見の活用 .....	3
4 対象事業及び評価方法 .....	3
(1)対象事業 .....	3
(2)評価方法 .....	4
5 令和6年度事業 教育に関する事務の点検評価報告書 .....	6

# 点検及び評価制度の概要について

## 1 制度について

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」のひとつとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価(以下「点検・評価」という。)を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

### 【根拠法令】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 目的について

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育環境を提供することに資するとともに、

住民に対する行政の説明責任(アカウンタビリティ)を果たすための体制を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としています。

### 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価を実施するにあたり、地教行法第26条第2項の規定による「教育に関し学識経験を有する者の知見」の活用を図るため、「教育に関する事務の点検及び評価実施要綱」を定め、選任した学識経験者2名から外部評価を受けるという形で実施しました。

魚沼市教育委員会 事務点検評価者

氏 名	経 歴 等
高松 利治 氏	新潟県立小出高等学校長
星野 正人 氏	魚沼市文化協会長

### 4 対象事業及び評価方法

#### (1)対象事業

本年の点検・評価は、令和5年度における教育委員会の権限に属する事務のうち実際に教育委員会が管理・執行している事務事業の中から「第二次魚沼市総合計画 後期基本計画 実施計画」に登載された事業の中から次の事業を点検・評価の対象としました。

点検・評価対象事業

No.	事 業 名	担 当 課
1	教育支援事業	学校教育課
2	通学対策事業	
3	自然環境学習推進事業	
4	学級づくり支援事業	
5	文化振興事業	生涯学習課
6	埋蔵文化財調査活用事業	

No.	事業名	担当課
7	社会体育管理事業	生涯学習課
8	生涯学習センター建設事業	
9	地域子育て活動支援事業	子ども課
10	妊産婦・新生児訪問事業	
11	子ども医療費助成事業	
12	乳幼児健診事業	

## (2)評価方法

評価対象事業については、「魚沼市行政評価 事務事業評価 実施結果報告書(令和6年9月)」として既に公表されています。

こうしたことから事務点検評価者には、事業の内容、成果、課題並びに内部評価の結果等について説明し、外部評価として客観的な視点から点検・評価を実施していただきました。

点検・評価の結果については、「第二次総合計画後期基本計画実施計画事業シート 兼 事務事業評価シート」に外部評価欄を設け、事務点検評価者のコメントを追記しています。

### 点検評価の経過

月 日	会 議 名	内 容
10月16日	第1回 教育に関する事務の点検及び評価(令和6年度実施事業)	委嘱状交付 生涯学習課及び子ども課所管事業の点検・評価
10月20日	第2回 教育に関する事務の点検及び評価(令和6年度実施事業)	学校教育課所管事業の点検・評価
11月13日	第3回 教育に関する事務の点検及び評価(令和6年度実施事業)	点検・評価結果とりまとめ
11月18日	魚沼市教育委員会協議会	点検・評価結果報告

## 【参考】内部評価について

### 一次評価(担当課評価)

事業担当課において、目標の達成度や執行状況等を踏まえた「事業の達成度」をSABCDの5段階からの選択式で評価し、「事業の課題と今後の取組」を記述式で評価しました。

#### ◆評価項目と評価の内容

評価項目	評価内容
事業の達成度	S評価 目標超過達成
	A評価 目標達成
	B評価 相当程度進展あり
	C評価 進展が大きくない
	D評価 目標に向かっていない
事業の課題と今後の取組	記述式

令和6年度事業  
教育に関する事務の点検評価報告書

第二次総合計画後期基本計画実施計画事業シート  
兼 事務事業評価シート

1. 基本情報

評価対象年度 R6

事業No.	371	事業名	教育支援事業				評価担当	部	教育委員会
重点		開始年度	令和 3 年度	終了(予定)年度	令和 7 年度	会計	課	学校教育課	
対象	児童・生徒	区分	■ ソフト □ ハード		一般	款	係	庶務係	
						項	担当者		
						目	連絡先 (IP)		
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策						まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策			関連目標						
関連する分野別施策番号			施策						
5-3-1	教育・文化	自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進							
5-3-2	教育・文化	市民が参加し世代を超えて交流する地域に開かれた学校づくり							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	

2. 事業の目的

学校における会計年度任用職員（特別支援ポーター・学習補助、スクールサポートスタッフ等）の適正な配置や、教職員の資質向上のための研修機会の確保、スキー授業の補助、部活動支援を通じて学校現場における教育活動の支援を図ります。市内小中学校（堀之内小学校、小出小学校、湯之谷小学校、須原小学校、小出中学校）にて開設している「通級指導教室」を運営し、特別な支援が必要な児童生徒への支援を図ります。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	学校介助員（44人）【拡充】学習補助（6人）、スクールサポートスタッフ（6人）【拡充】、学校教育課への事務補助員（1人）【新規】の配置、部活動コーディネーター業務を行う指導主事（1人）【新規】の配置、各種研修会講師賃金、学校支援者補償、教育振興会や小中学校部活動への補助金（中学校5校、小学校1校に補助）、スポーツ振興センター共済負担金、小中学校スキー授業リフト使用料ほか。なお、特別支援に関わる指導主事、スクールワーカーについては、教育センター運営事業に事業を移管しました。
令和6年度	特別支援ポーター（44人）、学習補助（6人）、スクールサポートスタッフ（6人）、学校教育課への事務補助員（2人）【拡充】の配置、部活動コーディネーター業務を行う指導主事（1人）の配置、学校支援者補償、教育振興会や小中学校部活動への補助金（中学校5校、小学校1校に補助）、スポーツ振興センター共済負担金、小中学校スキー授業リフト使用料ほか。※R6年度より介助員を特別支援ポーターに職種名変更

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	113,638	130,717	130,520	165,707	196,588	196,588		933,758	
財源内訳	特定財源	8,277	18,786	20,062	10,159			57,284	
	一般財源	105,361	111,931	110,458	155,548			483,298	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名	現状値 (R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位	
1		(参考) 特別支援ポーター(旧介助員)数	37	目標値	40	43	44	44	44	-	人
				実績値	40	41	42	43			
				達成率	100.0%	95.3%	95.4%	97.7%	%		
2		(参考) 学習補助数	5	目標値	5	6	6	6	6	-	人
				実績値	5	6	6	6			
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%		
3				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

6. その他特記事項

特別支援サポーターの配置実績については、年度途中で1人欠員が発生し応募がなかったため、実績として43人の配置となります。

7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	評価の指標となっている特別支援サポーター及び学習補助の配置については、ハローワークを通じて求人を行い人材を確保していますが、近年の担い手不足に伴い年度途中の急な退職等により欠員となっても求人申し込みが少なく、人材の確保が深刻な問題となっています。
上記の問題を解決するための方策、取り組みこと（課題）	引き続き、ハローワークを通じて求人を行うとともに、市報や市のホームページへの掲載、民間求人サイトの活用等についても検討を進め、安定的な人材の確保を目指します。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-3-1 教育・文化 自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	特別な支援が必要な児童生徒一人一人の実態に応じ、きめ細かに生活の補助を行うことが求められます。担任一人では対応が困難な状況があり、必要に応じた職種の会計年度任用職員を配置することで教育支援の充実を図ることができ、施策に対して貢献できています。
5-3-2 教育・文化 市民が参加し世代を超えて交流する地域に開かれた学校づくり	少子化等による中学校部活動に関する諸問題を解決するため、部活動の地域移行に向けた取組を進めています。それに伴い、地域とのコーディネーター業務を担う指導主事を配置することにより、生徒、保護者、地域指導者等のニーズを調整し、世代を超えた関わりが図ることができ、施策に対して貢献できています。

8. 事務事業の実績と成果

実績	個別指導や特別な支援が必要な児童生徒の支援体制を強化するため、小学校に特別支援サポーター34名、学習補助1名、中学校に特別支援サポーターを9名、学習補助5名を配置し、きめ細かな学習体制を整えました。また、児童数の多い小学校6校に対し、スクールホストスタッフを各1名配置することにより、教職員の多忙化解消についても取り組みました。そのほか、部活動を通じた心身の健全な育成を目指して、遠征費等の支援を行いました。
成果	個別指導や特別な支援が必要な児童生徒の支援体制を強化するため、特別支援サポーター・学習補助を配置し、少人数指導によるきめ細かな学習体制を整えることで、それぞれの成長・発達を促すことができました。

9. 事後評価（担当課評価）

	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
施策への貢献度	5-3-1 教育・文化 自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 各学校の児童生徒の状況に応じ、必要な会計年度任用職員を配置することで教育支援の充実を図ることができ、施策に対して貢献できています。
	5-3-2 教育・文化 市民が参加し世代を超えて交流する地域に開かれた学校づくり	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 各学校の児童生徒の状況に応じ、必要な会計年度任用職員を配置することで教育支援の充実を図ることができ、施策に対して貢献できています。
		高い やや高い やや低い 低い	
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）
	B	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きい D：目標に向かっていない	特別な支援を必要とする児童生徒数は増加していますが、各学校の状況に応じ、必要な会計年度任用職員を適正に配置することができたため、目標を概ね達成できたと評価できます。
事業の課題又は今後の方向性			ハローワーク、市ホームページ等を通じて、必要な会計年度任用職員を募集していますが、応募数が減少しており必要人員の確保が課題となっています。また、特別な支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にあり、教育的ニーズも多様になっています。今後も就学相談の充実にも努め、個々のニーズに合った適切な学びの場への就学を実現していくとともに、限られた人員の中で効率的な職員配置を検討していく必要があります。
外部評価	特別支援サポーター・補助員の配置と少人数指導は、学校現場の支援体制を強化し、子どもたちの成長・発達に大きく寄与しているとともに、教職員の業務負担軽減にも貢献しています。人材確保の課題はあるものの、地域に開かれた学校づくりと生きる力を育む教育の推進に資する重要な取組であると評価します。支援を要する児童生徒に対して、現場教職員の声を大切にして各種評価指標などを深掘し、対応してください。		

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	373	事業名	通学対策事業				評価担当	部	教育委員会
重点	開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款	10		課	学校教育課
		終了(予定)年度						令和 7 年度	係
対象	児童・生徒	区分	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード	項目	1	担当者			
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策							まち・ひと・しごと総合戦略		
重点施策		関連目標							
関連する分野別施策番号				施策					
5-3-3	教育・文化	安全・安心な学校施設の整備							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン		

2. 事業の目的

学校から遠隔地の児童生徒の確実な通学手段を確保するために、市内小中学校の児童生徒のスクールバスによる送迎、市内小中学校の児童生徒の通学定期券支給、市所有バスの維持管理、自転車通学の通学用ヘルメット購入補助等を行います。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	学校から遠隔地の児童生徒の確実な通学手段を確保する ・市内小中学校の児童生徒のスクールバスによる送迎 ・市内小中学校の児童生徒の通学定期券支給 ・市所有バスの維持管理 ・自転車通学の通学用ヘルメット購入補助
令和6年度	学校から遠隔地の児童生徒の確実な通学手段を確保する ・市内小中学校の児童生徒のスクールバスによる送迎 ・市内小中学校の児童生徒の通学定期券支給 ・市所有バスの維持管理 ・自転車通学の通学用ヘルメット購入補助

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	83,360	87,105	93,989	97,704	123,695	134,000		619,853	
財源内訳	特定財源	0	700	800	800			2,300	
	一般財源	83,360	86,405	93,189	96,904			359,858	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位	
1		(参考) スクールバス利用児童生徒数	465	目標値	-	-	-	-	-	-	人
				実績値	455	431	415	376			
				達成率	%	%	%	%			
2		(参考) 定期券支給児童生徒数	75	目標値	-	-	-	-	-	-	人
				実績値	79	50	73	63			
				達成率	%	%	%	%			
3		(参考) スクールバス保有台数	12	目標値	-	-	-	-	-	-	人
				実績値	12	12	12	12			
				達成率	%	%	%	%			
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%			

6. その他特記事項

--

7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	市有バスが老朽化していますが計画どおりに新規購入、更新ができていない状況です。また、公共交通機関とのバス運行の調整が必要となっています。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	児童生徒数の減少状況を早期に把握して、バス運行方針、配置計画の見直しを図ります。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-3-3 教育・文化	計画どおりにスクールバスを運行することで、児童及び生徒が授業に遅れることなく通学し、学校で学ぶことができますようになります。スクールバスの必要な修繕及び点検をすすめることで、児童及び生徒が安全に登下校することができます。
安全・安心な学校施設の整備	

8. 事務事業の実績と成果

実績	学校から遠距離の児童生徒の通学手段を確保するため児童生徒のスクールバスによる送迎及び通学定期券支給、自転車通学の通学用ヘルメット購入補助の実施を行いました。 例年実施の通学路通常点検を行うとともに、過去の対策未実施箇所の見直し、対策を実施しました。 また、低学年の児童を対象に、熱中症対策に伴うスクールバスの運行を行いました。
成果	学校及びバス運行業者と運行配車計画の確認を定期的に行い、計画に沿ったスクールバスの配車を行うことができました。 熱中症対策に伴うスクールバスを運行することにより、熱中症の防止につながりました。 また、特別支援学校に通学する児童生徒の保護者に対し、就学に必要な経費の一部を助成することで、保護者の負担軽減が図られました。

9. 事後評価（担当課評価）

	関連施策名	貢献度評価		評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	施策への貢献度	5-3-3 教育・文化 安全・安心な学校施設の整備	高い やや高い やや低い 低い	やや高い
		高い やや高い やや低い 低い		
	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
事業の達成度	B	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	乗車計画等を適正に立て、バスの配車が問題なく適切に運行できたため。	
事業の課題又は今後の方向性	市有バスが老朽化しているため、新規購入、計画的な更新及び公共交通機関とのバス運行の調整が必要です。 児童生徒数の減少状況を早期に把握して、バス運行方針、バスの配置計画の見直しを図ります。			
外部評価	遠距離通学児童生徒へのスクールバス運行や定期券支給、ヘルメット購入補助などの多面的な支援は、安全・安心な通学環境の確保に寄与しています。熱中症対策としてのバス運行・通学路の点検は特に重要です。今後は老朽化した市有バスの更新や児童生徒数の変化に応じた運行体制の見直しを検討してください。			

第二次総合計画後期基本計画実施計画事業シート  
兼 事務事業評価シート

1. 基本情報

評価対象年度 R6

事業No.	377	事業名	自然環境学習推進事業				評価担当	部	教育委員会
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	終了(予定)年度	令和 7 年度	会計	課	学校教育課	
対象	児童	区分	■ ソフト □ ハード		一般	款	係	庶務係	
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策						項目	担当者		
						目	連絡先 (IP)		
						10	まち・ひと・しごと総合戦略		
重点施策	2-1 郷土愛の醸成	関連		目標					
関連する分野別施策番号			施策						
2-3-1	環境衛生・自然	環境教育と環境学習の推進							
5-3-1	教育・文化	自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

市立小学校5学年児童を対象に、尾瀬国立公園内に宿泊し自然環境学習を行うことで、次世代を担う子ども達の自然環境への関心、環境保全意識の醸成を図ります。また、集団活動を通じてマナーや仲間との協調性を育みます。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	尾瀬国立公園に1泊2日を実施 参加校：市立小学校8校（R4年度末入広瀬小学校閉校） 参加児童見込：児童 220名、教員 32名 経 費：交通費・ガイド料の全額公費負担。宿泊費の1/2助成。
令和6年度	尾瀬国立公園に1泊2日を実施 参加校：市立小学校8校 参加児童見込：児童 238名、教員 35名 経 費：交通費・ガイド料の全額公費負担。宿泊費の1/2助成。

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	2,774	4,441	5,478	6,118	6,663	6,663		32,137	
財源内訳	特定財源	2,700	3,413	3,000	4,240			13,353	
	一般財源	74	1,028	2,478	1,878			5,458	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1		事業が施策の実現に貢献していると答えた教員の割合 事業実施後に調査を行い、「貢献している」と回答した教員/全調査教員	97	目標値	90	90	90	90	90	90	%
				実績値	100	96	96	100			
				達成率	111.1%	106.6%	106.6%	111.1%	%		
2		参加児童の身近な環境に対する興味・関心が高まったと答えた教員の割合 事業実施後に調査を行い、「意識が育まれた」と回答した教員/全調査教員	100	目標値	90	90	90	90	90	90	%
				実績値	100	87	96	92			
				達成率	111.1%	96.6%	106.6%	102.2%	%		
3		環境を守るために進んで行動したいと答えた児童の割合 事業実施後に調査を行い、「進んで行動したい」と回答した児童/全調査児童	99	目標値	90	90	90	90	90	90	%
				実績値	96	96	95	99			
				達成率	106.7%	106.6%	105.5%	110.0%	%		
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

## 6. その他特記事項

--

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	気象条件に伴う日程変更等が予想され、現地での学習内容の変更や船・バス等の調整と、けがや病気など緊急時の連絡や移送などが課題です。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	連絡体制を見直し、不測の事態が起きた場合に迅速な対応ができるよう、各関係機関と連携を図ります。
関連施策	施策のどこに貢献するか
2-3-1 環境衛生・自然 環境教育と環境学習の推進	魚沼市から尾瀬国立公園に入ることができ、環境学習ガイドによる教員への事前支援や現地での説明を受けるなど、環境保全のための様々な対策を体験する機会となっています。交通費・ガイド料・宿泊費の助成を行うことで、市内全小学校の5年生が参加し、環境意識の醸成を図っています。
5-3-1 教育・文化 自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	尾瀬の雄大な自然の中での活動を通じ、ルールやマナー、仲間との協力や達成感などの多くを体験する機会となっています。毎年多くの児童の行動意欲と意識の醸成が図られます。

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	市立小学校8校から児童230名、教職員34名が尾瀬を訪れ、環境学習ガイドのサポートにより自然環境学習を行いました。事後学習では、新聞やポスターを作成し、他の学年や保護者、地域の方々に向け学習発表会を行いました。
成果	尾瀬での体験学習を通して現地で見ることのできる動植物に触れ、環境保全に関するルールを学ぶことで、環境に対する意識を高めた児童が多くみられました。事後学習についても学んだことを発表する機会を学校内外で多く設けたことで、学ぶ意欲を育むことができました。

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価		評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	2-3-1 環境衛生・自然 環境教育と環境学習の推進	高い やや高い やや低い 低い	高い	環境学習ガイドによる教員への事前支援や児童に対する現地での説明などを行うことで、児童が環境保全の様々な対策を体験する機会となっています。
	5-3-1 教育・文化 自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	高い やや高い やや低い 低い		
		高い やや高い やや低い 低い		
	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
事業の達成度	A		S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない 市内全小学5年生を対象とした環境体験学習であり、身近な自然への気付きや環境保全への行動意欲など、環境保全意識が育まれました。事後学習で他学年や保護者への発表したことで、他学年の意識の芽生えにもつながっています。	
事業の課題又は今後の方向性	参加教員からの懸念として、十分な装備を準備できない家庭もあるため、援助が必要であるとの意見があります。また、救急対応において教員以外のサポートがないことが不安であるとの声もあるため、現地での救急対応についての情報を説明回等でお知らせしていきます。			
外部評価	尾瀬国立公園での宿泊体験を通じ、自然環境への関心と環境保全意識を育成し、現地ガイド支援・事後発表により学習を深め地域波及も見られると評価します。教員・児童の満足度は高く教育効果は明確です。今後は装備支援と救急対応体制を強化し安全な実施体制を整え、家庭への装備支援や救急対応のガイドサポーター要員の制度化など工夫をしてください。			

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	379	事業名	学級づくり支援事業				評価 担当	部	教育委員会
重点	開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款	10		課	学校教育課
		終了(予定)年度						令和 7 年度	係
対象	児童・生徒	区分	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード	項目	1	3		担当者	
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策							まち・ひと・しごと総合戦略		
重点施策			関連 目標						
関連する分野別施策番号				施 策					
5-3-1	教育・文化	自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連 SDG s			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

魚沼市の小中学校の学力は低迷を続け、不登校の発生率はここ数年県の数値を上回っており、学力向上・不登校の発生率の低下は最重要課題になっています。  
魚沼市の全ての学級を多様性を包含する学級集団にし、学力と社会性の向上を目指します。

3. 主な事業内容

年 度	事 業 内 容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童生徒へのWEBQU検査の実施</li> <li>教職員研修会の開催、専門部会の開催</li> <li>教職員へのコンサルテーションの実施</li> <li>温かい学級づくりリーフレット作成</li> <li>校内研修用図書の購入</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童生徒へのWEBQU検査の実施</li> <li>教職員研修会の開催</li> <li>教職員へのコンサルテーションの実施</li> <li>温かい学級づくりリーフレット作成</li> <li>校内研修用図書の購入</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金 額	4,256	4,659	4,485	3,142	3,046	3,046		22,634	
財源 内訳	特定財源	0	2,000	2,000	1,500			5,500	ふるさと結基金
	一般財源	4,256	2,659	2,485	1,642			11,042	

5. 指標の設定

No.	関連 事業 No.	指 標 名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1		学級満足度の割合	小58 中74	目標値	小75中70	小75中70	小75中70	小75中70	小75中70	小75 中70	%
		Q-Uテスト学級満足群の割合が70%以上となる学級の割合		実績値	小63.8中75	小70.2中88.9	小66.2中68.5	小61.7中63.6			
2		アンダーアチーパー出現率	17	目標値	16	16	16	16	16	16	%
		標準学力検査NRT結果に基づくアンダーアチーパー出現率の割合(標準出現率16%)		実績値	小10中16	小12中18	小19中20	小18中25			
3		不登校による30日以上 の欠席者の割合	小0.47 中3.12	目標値	小1.15中4.78	小1.58中5.75	小2.05中6.59	小2.05中6.59	小2.05中6.59	小2.05 中6.59	%
		県及び全国平均との比較に基づく(H30県平均 小学校0.64%、中学校3.38%)		実績値	小0.28中4.86	小1.08中5.95	小1.47中6.66	小1.93中7.59			
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

## 6. その他特記事項

不登校出現率を不登校・いじめ問題対策事業の数値に合わせました。

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	学級満足度の割合は上がってきていますが、学力向上と不登校発生率の低下につながっていません。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	学級を居心地のよい学級にするとともに、授業づくり・人間関係づくりに焦点化して取り組みます。また、教職員の指導力向上にも力を入れ、学力向上と社会性の向上につなげていきます。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-3-1 教育・文化	親和的な学級集づくりを進め、子どもたちの学習意欲を高めて学力向上と不登校の防止を図る本取組は、お互いに協力し合い、感性豊かでたくましい子どもを育てる教育環境の整備に役立っています。
自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	年2回のWEBQU調査の実施により、学級の状態を把握し、学級づくりの基礎となるデータの収集を進めました。また、各校の「自校プラン」の作成を行うとともに校内研修や全員研修会、校長、教頭及び校内推進員向け研修の実施、教育センターの学校担当指導主事によるコンサルテーションなどを通じて学級づくりの方法や理論、市の取組について教職員への周知及び支援を行いました。
成果	学級満足度の割合は目標を下回りましたが、多様性を認め合う集団の目安となるインクルーシブラインの中に一定数の児童生徒が収まる学級が多数を占め、児童生徒が安心して授業を受けられる学習環境が整っています。一方で「主体的・対話的で深い学び」が求められる授業の進め方になじみず、集団に不適應な子が学習に遅れを生じてアンダーアチーバー※が増加を続けています。学力不振が登校意欲の低下につながり不登校増加の原因にもなっていると考えられます。※アンダーアチーバー：知的発達段階に、見合った学力が発揮されていない状態にある児童生徒

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	5-3-1 教育・文化	高い やや高い やや低い 低い	やや高い
	自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進		
		高い やや高い やや低い 低い	
	高い やや高い やや低い 低い		
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）
	<b>B</b>	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	学級満足度は目標を下回りましたがインクルーシブライン内にある学級の割合は安定しており、児童生徒が安心して授業を受けられる学習環境の整備に役立っています。
事業の課題又は今後の方向性	年度初めの学級づくりに学校間、学級間で差が生じています。学級課題の確実な引継ぎと共有、全校体制での学級づくりの取組が求められています。 アンダーアチーバーが増加しており、授業で習得した学習内容を確実に身に付けるための手立てが必要です。研修・講座の充実など教職員の指導力向上の取組をより一層進めていきます。		
外部評価	WEBQU調査や教職員研修、コンサルテーションを通じ、学級環境の改善に一定の成果が見られますが、アンダーアチーバーの課題は依然として残っています。先進事例を参考に、課題の共有と教職員の指導力向上をさらに推進し児童生徒の成長を支える体制を強化してください。教職員間のオープンな意見交換と切磋琢磨を促してください。		

第二次総合計画後期基本計画実施計画事業シート  
兼 事務事業評価シート

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	72	事業名	文化振興事業				評価 担当	部	教育委員会
重点	重点	開始年度	令和	年度	会計	一般		課	生涯学習課
		終了(予定)年度	令和	年度				項	4
対象	全市民	区分	■ ソフト □ ハード		目	6		係	社会教育係
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策							まち・ひと・しごと総合戦略		
重点施策	2	郷土愛の醸成			関連 目標		担当者		
関連する分野別施策番号				施策名					
5-4-1	教育・文化	芸術・文化活動の促進							
5-4-2	教育・文化	地域文化の振興と発信							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連 SDG s			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

芸術・文化活動にすべての人が参加できる場を設けることにより、地域の文化振興を促進し、豊かな感性や表現力を育むことを図ります。また、地域に根差した文化活動の継承を通じて、地域とのつながりを強くし、郷土愛の醸成を目指します。

3. 主な事業内容

年 度	事 業 内 容
令和5年度	・魚沼市美術展・各地域文化祭(堀之内、小出、湯之谷、広神、守門入広瀬)・各地域芸能祭(堀之内、小出、湯之谷、広神、守門入広瀬)・伝統文化芸能育成事業補助金・魚沼の達人認定制度・魚沼市文化協会事務局(視察研修事業、交流会、かるたとり大会)・魚沼子ども芸能祭・市内小中学校招待コンサート
令和6年度	・魚沼市美術展・各地域文化祭(堀之内、小出、湯之谷、広神、守門入広瀬)・各地域芸能祭(堀之内、小出湯之谷、広神、魚沼北)・伝統文化芸能育成事業補助金・魚沼の達人認定制度・魚沼市文化協会事務局(視察研修事業、交流会、かるたとり大会、魚沼市文化協会設立25周年記念事業)・市内小中学校にて絵画常設展示・魚沼子ども芸能祭・市内小中学校招待コンサート・NHK全国放送公開番組「民謡魂」

4. 総事業費

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金 額	2,941	3,729	5,797	6,017	9,137	7,000		34,621	
財源 内訳	特定財源	0	167	918	3,647			4,732	
	一般財源	2,941	3,562	4,879	2,370			13,752	

5. 指標の設定

No.	関連 事業 No.	指 標 名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位	
				実績	実績	実績	実績	実績			
1		芸術・文化活動の促進 文化会館年間利用者数	22,932	目標値	77,000	77,000	77,000	77,000	77,000	77,000	人 /年
				実績値	41,374	56,696	60,128	59,157			
2		地域文化の振興と発信 芸術文化の事業件数	27	目標値	75	75	75	75	75	75	件 /年
				実績値	41	47	47	47			
3		各種催し物の参加者数 市美術展、各地域芸能祭、文 化祭来場者数	7,428 (H30実績)	目標値	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	人 /年
				実績値	3,877	4,495	4,753	4,477			
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

6. その他特記事項

--

7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	魚沼市美術展、地域文化祭、芸能祭の出品者数などから文化芸術活動者の減少が見受けられます。また、観覧者については、交通手段が無く、参加できないという方がいます。各種イベント情報を市報等で発信しますが、数多くある情報に埋もれてしまい、参加したいという方が見落としてしまうケースがあります。
上記の問題を解決するための方策、取り組みこと（課題）	SNS等の有効活用、魚沼市小出郷文化会館や魚沼市文化協会との連携、ポスター等の掲示などを積極的に行い、広く市内外に発信します。交通手段については、できるだけ乗り合わせで来ていただけるように実行委員を始め、地域の囑託員やコミ協などと連携し、周知します。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-4-1 教育・文化	魚沼市美術展、各地域文化祭、各地域芸能祭を開催し、作品発表の場を設けることにより、出品者、出演者、観覧者の芸術・文化活動の促進に貢献します。
芸術・文化活動の促進	
5-4-2 教育・文化	地域文化の振興のため、伝統文化芸能育成事業補助金を交付し、伝統文化芸能者の育成と継承を図ります。また、各地域文化祭、各地域芸能祭を開催することにより、地域の特色を生かした地域文化の発信に貢献します。
地域文化の振興と発信	

8. 事務事業の実績と成果

実績	主催事業として、魚沼市美術展、各地域文化祭、各地域芸能祭を開催しました。また、響きの森文化会館において、NPO法人魚沼交流ネットワークとの共催で、普及啓発事業8件、公演事業5件、人材育成事業9件、連携事業3件を開催することができました。また、今年度は市制施行20周年と魚沼市文化協会設立25周年が重なったこともあり、文化協会との共催で、交流会、魚沼方言かるた「かるた取り大会」を開催することができました。魚沼市地域伝統芸能継承事業として、伝統文化芸能育成事業補助金を市内神輿会の提灯作成、市内太鼓団体の衣装作成、市内盆踊り保存会の浴衣作成のため交付しました。なお、魚沼の達人認定制度については、令和6年度の認定者は1名でした。
成果	各種事業の開催により、幅広い世代が参加し、市民が様々な文化芸術に親しむ機会が生まれました。また、文化芸術活動が活発化することで、交流による人と人とのつながりを創ることができました。文化芸術活動を楽しむ中で、参加者が魚沼市の自然やコミュニティ、食文化などに親しむことができ、郷土愛の醸成にもつながりました。

9. 事後評価（担当課評価）

	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
施策への貢献度	5-4-1 教育・文化	やや高い	主催事業や、NPO法人魚沼交流ネットワーク、魚沼市文化協会との共催事業を開催することで、市民を始め多くの人が芸術文化に触れる機会を提供し、芸術・文化の活動の促進に貢献しました。
	芸術・文化活動の促進		
事業の達成度	5-4-2 教育・文化	やや高い	各地域文化祭、各地域芸能祭を開催し、小中学生を始め幅広い世代が文化芸術活動に参加できる場を設けたことで、地域の文化振興と発信に貢献しました。
	地域文化の振興と発信		
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）
	C	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	
事業の課題又は今後の方向性	事業の参加者を増やすためには、これまでの参加者を継続的に確保しつつ、新たな層の参加を促すことが重要だと考えます。特に、中高校生や働く世代の参加促進が課題であり、これらの世代のニーズに合った魅力ある事業の企画・実施が求められます。今後の取組としては、事業内容を見直し誰もが参加しやすい事業の展開を目指すとともに、参加を通じて個人及び地域の芸術・文化の振興を図ります。あわせて広報の方法も工夫し、情報発信の強化を図ります。また、中学校部活動の地域移行についても、関係機関と連携しながら円滑に進めていきます。		
外部評価	美術展や各地域文化祭などを通じて、市民の芸術・文化活動への参加機会を広げ、地域文化の継承と郷土愛の醸成に貢献しましたが、若年層や働く世代の参加促進が課題です。広報と移動手段の工夫と魅力ある事業を展開してください。また、伝統文化芸能育成事業補助金制度の継続と対象事業の発掘に努めてください。		

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	451	事業名	埋蔵文化財調査活用事業				評価担当	部	教育委員会
重点	開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款	10		課	生涯学習課
		終了(予定)年度						令和 7 年度	係
対象	全市民	区分	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード	項目	4	担当者			
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策							まち・ひと・しごと総合戦略		
重点施策		関連目標							
関連する分野別施策番号				施策名					
5-4-3	教育・文化	文化財の保護と活用							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	

2. 事業の目的

市内に所在する埋蔵文化財保護のため、開発行為などで破壊される遺跡の記録・保存・公開活用をします。市指定史跡黒姫洞窟遺跡及び歴史の道百選八十里越の国史跡登録を目指し、記録・保存・整備を行い、成果を積み上げていきます。発掘調査で得られた資料・記録の整理・分析・研究を行い、遺跡の性格解明及び調査報告書を定期的に刊行していきます。発掘調査成果物の収納・管理を図りながら、展示して市民に公開し、地元の歴史への理解と関心を高めていきます。

3. 主な事業内容

年 度	事 業 内 容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査・報告</li> <li>開発に伴う試掘確認調査等（伊米ヶ崎中央地区、金ヶ沢地区、中家・池平地区ほか）</li> <li>遺跡本発掘調査（谷内遺跡ほか）</li> <li>夏休み縄文体験教室、遺跡報告会、企画展等、パンフレット等作成</li> <li>黒姫洞窟遺跡調査</li> <li>歴史の道百選八十里越 発掘調査等、調査保存整備委員会、総合計画策定 ほか</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査・報告</li> <li>開発に伴う試掘確認調査等（伊米ヶ崎中央地区、中家・池平地区ほか）</li> <li>遺跡本発掘調査（谷内遺跡ほか）</li> <li>夏休み縄文体験教室、遺跡報告会、企画展等、パンフレット等作成</li> <li>黒姫洞窟遺跡調査</li> <li>歴史の道百選八十里越 発掘調査及び整備事業等、調査保存整備委員会 総合計画刊行 ほか</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金 額	59,913	68,431	126,457	99,922	94,177	100,000		548,900	
財源内訳	特定財源	35,765	46,082	99,077	77,972			258,896	
	一般財源	24,148	22,349	27,380	21,950			95,827	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1		講座・体験教室・企画展等の開催数 講座や体験教室、企画展等を開催し、市民にPRを行う。	2	目標値	4	4	4	4	4	4	回/年
				実績値	6	7	10	11			
				達成率	150.0%	175.0%	250.0%	275.0%	%		
2		講座・体験教室等の参加者数 講座や体験教室の参加者を増やし、市民の歴史・文化への認識を広める。	91	目標値	500	500	500	500	500	500	人/年
				実績値	342	297	312	424			
				達成率	68.4%	59.4%	62.4%	84.8%	%		
3		企画展等の見学者数 企画展等を通じて、市民の歴史・文化への認識を深める。	0	目標値	800	800	800	800	800	800	人/年
				実績値	1,365	984	937	720			
				達成率	170.6%	123.0%	117.1%	90.0%	%		

6. その他特記事項

県営圃場整備に伴う遺跡調査では、試掘調査の結果により、本発掘調査となる場合があります、事業費が大幅に増加する可能性があります。今後も数か所で広大な面積の圃場整備の計画があります。

7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	遺跡発掘調査において、発掘及び整理事業員の確保が難しい現状があります。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	発掘調査の業務委託を一部実施していますが、今後も取り入れていく必要があります。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-4-3 教育・文化	開発により破壊されていく埋蔵文化財を調査・記録・分析し、その成果を展示・公開活用を行い、講座や体験教室等を実施することで市民の郷土愛の醸成を図るとともに、観光資源としても市外に向けて魚沼市の魅力を発信します。
文化財の保護と活用	

8. 事務事業の実績と成果

実績	遺跡発掘調査の現地公開として、市内小学校3校を受け入れ発掘体験を実施しました。このほか、遺跡発掘報告会、企画展、ギャラリートーク、講演会、縄文体験教室を実施しました。また、これまでの調査および研究をいかした「魚沼市歴史資料館」を開館しました。
成果	文化財保護法により大規模開発に伴う試掘確認調査及び発掘調査を適切に実施し、圃場整備事業、県道路改良事業等の工程に影響を与えませんでした。また、令和5年度に引き続き遺跡発掘調査の現地公開として、市内小学校3校を受け入れ発掘体験を実施し、遺跡を生きた教材として活用することができました。このほか、遺跡発掘報告会、企画展、ギャラリートーク、講演会、縄文体験教室を実施し、魚沼市の歴史の紹介と文化財保護思想の普及啓発に寄与しました。歴史の道八十里越については、総合計画の策定が終了し、国指定史跡の指定に向け着実に前進しました。

9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）	
	5-4-3 教育・文化	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	魚沼市の歴史の紹介と文化財保護思想の普及啓発に寄与しました。 また、これまでの調査および研究をいかした「魚沼市歴史資料館」を開館しました。
	文化財の保護と活用			
		高い やや高い やや低い 低い		
	高い やや高い やや低い 低い			
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
	B	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	講座、体験教室などの開催は目標を超え、参加者数は目標達成ができなかったものの、遺跡発掘報告会などの実施により魚沼市の歴史の紹介と文化財保護思想の普及啓発に寄与しました。	
事業の課題又は今後の方向性		今後も、開発行為に伴う試掘確認調査・本調査、黒姫洞窟遺跡、歴史の道八十里越の調査等多岐にわたる事業が続くこと、またこれらの調査の成果を公開し活用していくため、専門的な知識のある職員の確保が必要です。埋蔵文化財の適切な保護とともに、市内小中学校の遺跡発掘体験等の実施や、令和7年3月に開館しました「魚沼市歴史資料館」の活用等により、市民が自らの郷土の歴史を学ぶ機会を創出するとともに、観光資源となる活用方法の創出に取り組めます。		
外部評価	発掘調査や企画展、体験教室などを通じて市民の歴史理解を深め、文化財保護思想の普及に貢献しました。郷土の資源を活かした遺跡発掘体験学習など、継続的に取り組んでください。講座開催数は目標を上回る一方、参加者数は目標未達であり、広報強化や魅力的な企画、専門人材の確保に努めてください。 歴史資料館が郷土の文化財保護の拠点として活用されることを期待します。			

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	459	事業名	社会体育管理事業				評価担当	部	教育委員会
重点		開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款	10	課	生涯学習課
		終了(予定)年度	令和 7 年度					項	5
対象	全市民	区分	■ ソフト □ ハード		目	1	担当者		
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策						まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策	2-2 地域人財の育成	関連目標							
関連する分野別施策番号				施策名					
5-5-3	教育・文化	スポーツにおける広域連携の推進							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	

2. 事業の目的

スポーツ推進審議会の開催やスポーツ推進計画（H28～R7）の進行管理、中間年（R2）の検証を行い、社会体育推進体制の充実に図ります。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進審議会の開催（年2回）</li> <li>・団体運営補助金の交付（魚沼市スポーツ協会6,700千円）</li> <li>・事業費補助金の交付（堀之内一周駅伝大会220千円、魚沼コシヒカリ紅葉マラソン300千円）</li> <li>・負担金の交付（県スポーツ施設協会負担金5千円、県社会人スポーツ推進協議会協賛金10千円、（新規）湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会負担金500千円、（新規）全国シクロサミット負担金10千円）</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進審議会の開催（年2回）</li> <li>・団体運営補助金の交付（魚沼市スポーツ協会7,862千円）</li> <li>・事業費補助金の交付（堀之内一周駅伝大会300千円、魚沼コシヒカリ紅葉マラソン800千円）</li> <li>・負担金の交付（県スポーツ施設協会負担金5千円、湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会負担金976千円、全国シクロサミット負担金10千円）</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	7,176	7,069	8,426	9,959	12,515	9,100		54,245	
財源内訳	特定財源	0	0	0	0			0	
	一般財源	7,176	7,069	8,426	9,959			32,630	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名	現状値(R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位	
1		イベント開催における近隣市町との連携回数	0	目標値	2	2	2	2	2	2	回数
		実績値		0	0	0	2				
2		当市含め近隣市町のスポーツイベント開催に関する相互でのPR回数	0	達成率	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	%	450	人
		スポーツイベントにおける近隣市町からのエントリー数		目標値	450	450	450	450	450		
3		魚沼コシヒカリ紅葉マラソンにおける長岡市及び中・北魚沼圏域の4市2町からのエントリー数	167,895	実績値	326	346	429	392		256,000	人
		達成率		72.4%	76.9%	95.3%	87.0%	%			
4		体育施設利用者数	167,895	目標値	256,000	256,000	256,000	256,000	256,000	256,000	人
		実績値		186,012	186,097	207,536	220,904				
4		体育館等の屋内体育施設、野球場・テニスコート・グラウンド等の屋外体育施設の個人利用者延べ人数	167,895	達成率	72.6%	72.7%	81.0%	86.2%	%	256,000	人
		目標値									
4				実績値							
		達成率		%	%	%	%	%			

## 6. その他特記事項

--

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	社会体育推進体制の充実を図るには、民間団体における社会体育事業への積極的な参画と、その中心となるスポーツ協会の組織強化が課題となっています。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	共催事業を含め、社会体育事業のほとんどについて民間団体主体事業への移行を目指すため、今後も一定程度の財政支援等が必要と考えます。また、引き続きスポーツ協会の法人化や事業の実施主体の受皿づくりに向けた協議を進めながら、各団体への支援を継続します。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-5-3 教育・文化	スポーツの普及・推進における様々な施策や各事業について、近隣市との情報交換や協力体制の構築、取組に対する連携の強化を進めていきます。
スポーツにおける広域連携の推進	

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	スポーツ推進審議会を年1回開催しました。また、団体運営補助金として魚沼市スポーツ協会に7,862千円を交付し、事業費補助金として堀之内一周駅伝大会に300千円、魚沼コシヒカリ紅葉マラソンに650千円を交付しました。また、湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会の活動として、南魚沼市八色の森公園で雪国魚沼Golden Cycle Route (GCR) コースや地域ルート等をテーマとしたトークイベントの開催、福井県敦賀市で自転車環境向上会議に参加しました。
成果	スポーツ協会への補助金は、スポーツ協会構成団体への補助金やスポーツ少年団への補助金としても交付され、魚沼市の多くのスポーツ競技やスポーツ振興に貢献しました。 堀之内一周駅伝と魚沼コシヒカリ紅葉マラソンは、市内外から多くの参加者が集まりました。 GCRについては、トークイベントを南魚沼市サイクルフェスタに併せて行ったためより多くの参加者に活動内容を周知することができました。

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名		貢献度評価		評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	5-5-3 教育・文化	スポーツにおける広域連携の推進	高い	やや低い	
			やや高い		
			やや低い		
	高い				
	やや高い				
	やや低い				
	低い				
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）		
	B	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	イベント開催において近隣市町と連携し、南魚沼市の南魚沼市サイクルフェスタに併せてトークイベントを行い、また、福井県敦賀市で自転車環境向上会議に参加し他県の取組状況を認識することができました。		
事業の課題又は今後の方向性		広域連携を推進するうえでの市民ニーズの把握に努め、スポーツ関連団体と連携して運動習慣の普及と実施率の向上への取組を進める必要があります。 魚沼地域定住自立圏構想において、スポーツ施設の相互利用について検討しており、また、GCRにおいても新たな取組や情報発信のコンテンツの整備を進めていくことになっており、今後より一層情報交換や協力体制の構築、取組に対する連携の強化を進めていきます。			
外部評価	スポーツ推進審議会の開催や補助金交付を通じて、地域のスポーツ振興に貢献しました。魚沼市スポーツ協会への支援や市内外からの参加者を集めた駅伝大会・マラソン大会の開催は、地域活性化に寄与しました。一方、広域連携では自転車活用推進協議会活動の進展を評価しますが、他市町との連携は限定的であり、今後は関連団体との連携を強化し、市民ニーズに応じた施策を展開してください。				

1. 基本情報

							評価対象年度	R6
事業No.	523	事業名	生涯学習センター建設事業				部	教育委員会事務局
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款	10	
		終了(予定)年度	令和 6 年度			項	4	
対象	全市民	区分	<input type="checkbox"/> ソフト <input checked="" type="checkbox"/> ハード	関係目標	目	5	担当者	
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策					まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策	2-2 地域人財の育成							
関連する分野別施策番号			施策名					
5-1-3	教育・文化	効率的・効果的な施設運営						
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号								
関連SDGs			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

小出庁舎解体後の跡地に図書館及び公民館機能を併せ持つことで、市民の利便性に配慮した生涯学習センターの建設を予定しています。また、現小出郷図書館移転後の建物については、まちのにぎわいづくりの施設として再整備を図ります。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計業務委託</li> <li>設計監理委託</li> <li>建築工事、機械設備工事、電気設備工事等</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計監理委託</li> <li>建築工事、機械設備工事、電気設備工事等</li> <li>開館に向けた準備（小出郷図書館からの書籍等の引越作業等）</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	280	13,749	401,840	2,344,094	1,700	0		2,761,663	
財源内訳	特定財源	0	6,905	376,800	1,793,493			2,177,198	
	一般財源	280	6,844	25,040	550,601			582,765	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位
1		事業の進捗率 必要に応じ、随時計画を見直します。3年間で100%としました。	0	目標値		15	50	100		
				実績値		15	50	100		
				達成率	%	100.0%	100.0%	100.0%	%	
2				目標値						
				実績値						
				達成率	%	%	%	%	%	
3				目標値						
				実績値						
				達成率	%	%	%	%	%	
4				目標値						
				実績値						
				達成率	%	%	%	%	%	

## 6. その他特記事項

生涯学習センター工事完了（引き渡し）：令和7年2月  
その後、引越作業に移行。開館：令和7年4月29日

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	公民館と図書館の複合施設におけるそれぞれの運用面についての細かな検討が必要である。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	令和7年4月の開館に向け、建設工事の進捗状況を管理していく必要がある。新図書館、小出公民館等の人員配置等を含め、運用面における調整を行う。
関連施策	施策のどこに貢献するか
5-1-3 教育・文化 効率的・効果的な施設運営	図書館・公民館、福祉センターの機能を集約し、効率的な施設運営を図ります。

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	建設工事（建築工事・電気工事・機械設備工事）の進捗状況にあたっては、工事全体会議の中で逐次確認を行い、工程表とおり工事を完了することができました。また、事務用什器など備品関係についても工程表とおり納品することができました。
成果	工程表どおりに工事を進め、遅延することもなく無事工事を完了することができました。4月29日の開館に向け、図書館、公民館の引越しを計画とおりに進めることができました。

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	5-1-3 教育・文化 効率的・効果的な施設運営	高い やや高い やや低い 低い	高い
		高い やや高い やや低い 低い	
	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）
事業の達成度	A		令和7年2月に建設工事が完了し、計画スケジュールどおりに引越作業を行い、開館準備を進めることができました。
事業の課題又は今後の方向性	まちの中心的な複合施設として多くの市民が集い・学ぶことのできる施設運営を目指していく必要があります。また、ここいらサポート員（ここサポ）会議を定期的開催し、イベントの企画や施設運営のあり方を始め、地元商店街と協働し、にぎわいづくりも併せて進めていきます。		
外部評価	生涯学習センター「ここいら」の完成により市民の期待は高まっています。今後は、市民の新たなニーズに柔軟に対応し、地域のにぎわい創出や学びの場としての活用を図るとともに、地域活性化に貢献する効果的な施設運営に努めてください。		

1. 基本情報

						評価対象年度	R6	
事業No.	171	事業名	地域子育て活動支援事業			評価担当	部 課 係 担当者 連絡先 (TEL)	教育委員会 子ども課 子育て支援センター
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	会計 一般	款 項 目	3	2	
		終了(予定)年度	令和 7 年度			6		
対象	就園前児童	区分	■ ソフト □ ハード					
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策					まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策	3-3 福祉の充実	関連目標	3	結婚・出産・子育ての希望がかなえられる環境をつくる				
関連する分野別施策番号		施策名						
3-2-2	健康・福祉	子育て環境の充実						
5-2-1	教育・文化	明るくのびのびとした子育て						
5-2-2	教育・文化	乳幼児教育の仕組みづくり						
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号								
関連SDGs					SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

地域全体で子育てを支える仕組みづくりに向け、子育て中の養育者の孤立化を防ぎ、適切な育児情報や交流の場を提供するために、ファミリー・サポート・センター事業の充実、子育てサークル支援、子育てボランティア育成等を行います。

3. 主な事業内容

年 度	事 業 内 容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー・サポート・センター事業の実施、子育てサークルの支援、子育てボランティアの育成等</li> <li>ファミリー・サポート・センター会員数 (100人)</li> <li>親子教室等 (4回 100人)、子育てサポーター派遣等 (5回 30人)</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー・サポート・センター事業の実施、子育てサークルの支援、子育てボランティアの育成等</li> <li>ファミリー・サポート・センター会員数 (100人)</li> <li>親子教室等 (4回 100人)、子育てサポーター派遣等 (5回 30人)</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金 額	4,147	2,502	2,801	3,604	4,240	4,235		21,529	
財源 内訳	特定財源	0	0	0	1,920			1,920	
	一般財源	4,147	2,502	2,801	1,684			11,134	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位	
				実績	実績	実績	実績	実績			
1		ファミリー・サポートセンター会員数 30人 (R1年度実績) から毎年10人程度の増を図る。	41	目標値	40	50	60	70	80	80	人
				実績値	67	94	112	93			
				達成率	167.5%	188.0%	186.6%	132.8%	%		
2		ファミリー・サポート・センター利用回数 18回 (R1年度実績) から毎年10回程度の増を図る。	23	目標値	30	40	50	60	70	70	回
				実績値	85	120	144	169			
				達成率	283.3%	300.0%	347.2%	281.6%	%		
3		子育てサポーターの人数 8人 (R1年度実績) から毎年2人程度の増を図る。	9	目標値	10	12	14	16	18	18	人
				実績値	9	7	7	8			
				達成率	90.0%	58.3%	50.0%	50.0%	%		
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

6. その他特記事項

--

7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	ファミリー・サポート・センター事業において、サポート体制の充実のために提供会員の増員が必要です。
上記の問題を解決するための方策、取り組みこと（課題）	ファミリー・サポート・センター事業の周知方法を工夫して、会員の増員を図ることや、依頼会員が提供会員に移行して行くことを進められるような提供会員を増員する取組が必要です。
関連施策	施策のどこに貢献するか
3-2-2 健康・福祉	ファミリー・サポート・センター事業の充実を図り、子育てボランティア等の育成をすることで、地域が一体となって子どもの発達を支援する環境を整えます。
子育て環境の充実	
5-2-1 教育・文化	ファミリー・サポート・センター事業や自主的な子育てサークルの活動を支援することにより、親にゆとりが生まれて明るくのびのびとした子育てが広がることにつながっています。
明るくのびのびとした子育て	

8. 事務事業の実績と成果

実績	子どもの発育発達のための親子教室を実施するなど、親子の交流と学びの場の提供をしました。また、ファミリーサポートセンターの制度を始めとする子育てのサポートや各種相談への支援体制を充実させるためファミリー・サポート・センター会員を対象とした研修を開催しました。
成果	ファミリーサポートセンターの制度については、令和3年度から市の助成制度を設け、依頼会員の利用料に上限を設定したことにより、利用回数が増加し続けており、依頼会員数・提供会員数ともに増加し、地域社会における相互援助活動の推進に寄与しました。

9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価		評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	3-2-2 健康・福祉	子育て環境の充実	高い やや高い やや低い 低い	やや高い
5-2-1 教育・文化	明るくのびのびとした子育て	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	ファミリー・サポート・センター事業や自主的な子育てサークルの活動を支援することにより、親にゆとりが生まれて明るく伸び伸びとした子育てに広がることにつながっています。
5-2-2 教育・文化	乳幼児教育の仕組みづくり	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	各親子広場や保健師との情報共有により、育児相談に関する連携及び体制強化が図られています。ファミリー・サポート・センターの会員数や子育てサポーターの登録者数が増えることで、子育てを支援したい人と支援を必要としている人の有効なマッチング機能が強化されています。
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
	B	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	指標3項目のうち2項目は目標を上回ったものの、1項目が目標を達成しなかったことからB評価としました。 地域社会における子育ての相互援助活動の更なる推進に向け、引き続き子育てサポーターの育成に向けた取組が必要です。	
事業の課題又は今後の方向性		ファミリー・サポート・センター事業においては、提供会員の増員が伸び悩んでおり、子育てサポーターについてもほぼ横ばい傾向にあることから人材不足が課題です。それぞれ増員に向けた周知方法の工夫に努めていきます。また、地域における自主的なサークル活動支援については、子育てサークルが継続して活動していくための支援を引き続き行っていく必要があります。		
外部評価	ファミリー・サポート・センター制度の普及が進み、利用回数が増え、地域で子育てを支える支援体制が進展しましたが、サポーターの人材不足が課題です。今後は、子育てサークル活動と提供会員の増員に向けた周知強化を図り、孤立防止と安心して子育てできる環境づくりをさらに推進してください。			

1. 基本情報

評価対象年度 R6

事業No.	197	事業名	妊産婦・新生児訪問事業				評価担当	部	教育委員会
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	終了(予定)年度	令和 7 年度	会計	課	子ども課	
対象	妊産婦・新生児	区分	■ ソフト □ ハード		一般	款	係	母子保健係	
						項	担当者		
						目	連絡先 (IP)		
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策						まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策	3-3 福祉の充実	関連目標	3	結婚・出産・子育ての希望がかなえられる環境をつくる					
関連する分野別施策番号		施策名							
3-2-1	健康・福祉	子育て支援							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs			SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン	

2. 事業の目的

妊産婦、新生児の健康状態の確認や相談に応じ、健やかな育児を支援します。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産師等に依頼し、妊産婦・新生児の訪問指導を実施します。</li> <li>未熟児養育医療の対象となった児を重点対象として訪問指導します。</li> <li>特定妊婦等支援が必要な妊婦に対し、妊娠中から保健師が訪問し相談支援を行います。</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産師等に依頼し、妊産婦・新生児の訪問指導を実施します。</li> <li>未熟児養育医療の対象となった児を重点対象として訪問指導します。</li> <li>特定妊婦等支援が必要な妊婦に対し、妊娠中から保健師が訪問し相談支援を行います。</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	1,041	840	928	687	1,035	1,035		5,566	
財源内訳	特定財源	0	0	0	0			0	
	一般財源	1,041	840	928	687			3,496	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名	現状値 (R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位
1		新生児への訪問率	92	目標値	93	94	95	95	95	%
				実績値	94.6	94.7	95.8	97.2		
		訪問数/出生数の割合	達成率	101.7%	100.7%	100.8%	102.3%	%		
2		(参考) 新生児訪問実人数/対象全数	198/202	目標値						
				実績値	159/168	126/133	137/143	103/106		
				達成率	%	%	%	%		
3		(参考) 妊婦・産婦訪問実人数/対象全数	193/200	目標値						
				実績値	166/172	128/134	148/153	103/106		
				達成率	%	%	%	%		
4				目標値						
				実績値						
				達成率	%	%	%	%		

## 6. その他特記事項

--

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	高い訪問実施率を維持していますが、入院など様々な事情で訪問しない場合があります。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	全ての妊産婦と新生児の状況の確認を継続し、訪問できる体制を維持することが必要です。
関連施策	施策のどこに貢献するか
3-2-1 健康・福祉	妊娠届出時に全妊婦に保健師が面接を行い状況を確認することで、特定妊婦等への早期支援及び継続支援につながっています。
子育て支援	出生連絡票の提出をもとに全産婦、新生児のいる家庭に連絡を取り、訪問できる体制を整えることで、安心して産み育てられる環境につながっています。

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	助産師または保健師が産後1か月以内に家庭訪問し、新生児の発育状況の確認と母の健康状態を把握し、育児手技や母乳等の相談に応じることで、育児不安や負担の軽減を図りました。 ○訪問状況 ・産婦：対象106、訪問実人数103、実施率97.2%、訪問延人数115 ・新生児：対象106、訪問実人数103、実施率97.2%、訪問延人数114 ・未熟児(再掲)：対象3、訪問実人数3、実施率100%、訪問延人数4
成果	妊娠届出時や妊婦訪問等で妊娠期からの関わりや医療機関との連携により、産後のスムーズな育児支援につながっています。新生児期に母や児の状況により訪問ができなかったケースにおいても、その後の支援の中で母子の健康状態や育児状況を把握することができています。

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	3-2-1 健康・福祉	高い やや高い やや低い 低い	高い 家庭訪問や医療機関との連携により、母子の健康状態の把握、すこやかな育児支援に貢献しています。
	子育て支援	高い やや高い やや低い 低い	
		高い やや高い やや低い 低い	
	高い やや高い やや低い 低い		
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）
	<b>A</b>	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	新生児の訪問実施率は高い水準を維持し、目標が達成されています。また、事情により新生児期に訪問できないケースにおいても把握することができています。
事業の課題又は今後の方向性	産婦の心身の負担を軽減することが産後うつ予防、児との愛着形成やその後の健やかな育児につながるため、継続的に支援を行う必要があります。妊娠期からの切れ目のない支援を心がけ、引き続きすべての新生児及び産婦を対象として家庭訪問を実施します。		
外部評価	助産師や保健師による家庭訪問を通じての、妊産婦・新生児の健康状態の把握や育児支援の実施と、医療機関との連携は、安心して出産・育児ができる環境を支えています。今後も産後の心身ケアや育児不安の軽減を図るため、切れ目のない支援体制を維持し、全対象者への訪問を実施してください。妊娠初期からのきめ細かなサポートは市の強みであり、広く周知してください。		

1. 基本情報

評価対象年度 R6

事業No.	200	事業名	子ども医療費助成事業				評価担当	部	教育委員会
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	終了(予定)年度	令和 7 年度	会計	課	子ども課	
対象	18歳以下	区分	■ ソフト □ ハード		一般	款	係	児童福祉係	
						項	担当者		
						目	連絡先 (IP)		
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策					まち・ひと・しごと総合戦略				
重点施策	3-3 福祉の充実	関連目標	3 結婚・出産・子育ての希望がかなえられる環境をつくる						
関連する分野別施策番号			施策名						
3-2-1	健康・福祉	子育て支援							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連SDGs					SDGsアイコン	SDGsアイコン	SDGsアイコン		

2. 事業の目的

児童の医療費助成により、保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てる環境整備に寄与します。

3. 主な事業内容

年度	事業内容
令和5年度	0歳から18歳到達後の最初の3月31日までの児童を対象に保険診療（保険適用分）にかかる自己負担額を全額助成します。
令和6年度	0歳から18歳到達後の最初の3月31日までの児童を対象に保険診療（保険適用分）にかかる自己負担額を全額助成します。

4. 総事業費

(単位：千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金額	87,689	93,644	110,300	102,380	105,983	105,983		605,979	
財源内訳	特定財源	29,289	34,257	35,750	38,832			138,128	
	一般財源	58,400	59,387	74,550	63,548			255,885	

5. 指標の設定

No.	関連事業No.	指標名	現状値(R2年度)	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位	
1		出生児の申請割合	100	目標値	100	100	100	100	100	100	%
		(実績) 新生児の申請者/新生児実数		実績値	100	100	100	100			
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%			
2		転入等の申請割合	100	目標値	100	100	100	100	100	100	%
		(実績) 転入等の申請者/転入者実数		実績値	100	100	100	100			
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%			
3		(参考) 子ども医療費助成件数	32,648	目標値	-	-	-	-		-	件
		実績値		38,078	38,732	47,361	42,837				
		達成率		%	%	%	%	%			
4				目標値							
		実績値									
		達成率		%	%	%	%	%			

## 6. その他特記事項

--

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	窓口での連携や制度周知等が不足することにより、申請手続き漏れが生じる恐れがあります。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	子育て支援にかかる情報発信や窓口での連携強化により、対象者への制度周知を図り適正な助成に努める必要があります。
関連施策	施策のどこに貢献するか
3-2-1 健康・福祉 子育て支援	保護者の経済的負担の軽減を図り、生活の安定と子どもの健全な育成に貢献しています。

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	市民課と連携を図り、出生・転入届時の申請受付により受給者証を交付しました。助成件数は42,837件（現物給付）、総額で99,691千円の助成を行うことができました。そのうち無償化にかかる助成額は19,229千円でした。
成果	0歳から18歳までの児童に対する医療費の全額助成を行うことで、子育て世帯の保護者の経済的な負担軽減を図り、子育て支援を行うことができました。

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）
	3-2-1 健康・福祉 子育て支援	高い やや高い やや低い 低い	やや高い
	高い やや高い やや低い 低い		
達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
事業の達成度	A		対象者全員に受給者証を交付し、医療費助成制度を利用していただきました。
	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない		
事業の課題又は今後の方向性	市民課との連携により異動届出時の申請漏れを防ぎ、対象者全員に受給者証を交付するとともに、子育て支援にかかる情報発信により制度周知を図り適正な助成に努める必要があります。また、今後も保護者の経済的な負担軽減を図り、安心して子育てのできる環境整備のため、継続して事業を実施する必要があります。		
外部評価	子ども医療費全額助成の継続実施により、保護者の経済的負担軽減に大きく貢献したと評価します。出生・転入時の市民課との連携を一層強化し、制度周知の工夫を図り、安心して子育てできる環境整備と支援を継続してください。		

1. 基本情報

評価対象年度	R6
--------	----

事業No.	201	事業名	乳幼児健診事業				評価 担当	部	教育委員会
重点	重点	開始年度	令和 3 年度	会計	一般	款		課	子ども課
		終了(予定)年度	令和 7 年度					係	母子保健係
対象	乳幼児	区分	■ ソフト □ ハード		項	1		担当者	
事業が関連する総合計画後期基本計画における施策						まち・ひと・しごと総合戦略			
重点施策	3-3 福祉の充実	関連 目標	3	結婚・出産・子育ての希望がかなえられる環境をつくる					
関連する分野別施策番号		施策名							
3-2-1	健康・福祉	子育て支援							
市国土強靱化地域計画推進方針関連番号									
関連 SDG s			SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	SDGs アイコン	

2. 事業の目的

乳幼児健診を通じて、乳幼児の健康管理及び健康増進を図り、子どもの成長や発達段階に応じた育児支援を行い、育児不安の軽減を図ります。

3. 主な事業内容

年 度	事 業 内 容
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別健診(随時) 対象：1か月児健診(費用助成)・9-10か月児健診(医療機関委託)</li> <li>集団健診(各12回/年) 対象：4か月児健診・1歳6か月児健診・2歳児健診・3歳児健診(屈折検査による眼科健診)</li> <li>新生児聴覚検査費の助成</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別健診(随時) 対象：1か月児健診(費用助成)・9-10か月児健診(医療機関委託)</li> <li>集団健診(各12回/年) 対象：4か月児健診・先天性股関節脱臼検診(4か月児健診と同時実施)・1歳6か月児健診・2歳児健診・3歳児健診(屈折検査による眼科健診)</li> <li>新生児聴覚検査費の助成</li> </ul>

4. 総事業費

(単位：千円)

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備考
金額区分	決算額	決算額	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額		
金 額	6,301	7,138	5,481	6,058	8,357	10,058		43,393	
財源 内訳	特定財源	4,700	3,109	4,400	3,900			16,109	
	一般財源	1,601	4,029	1,081	2,158			8,869	

5. 指標の設定

No.	関連 事業 No.	指 標 名 指標の説明	現状値 (R2年度)	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1		健診受診率(4か月児、1歳6か月児、3歳児)	100	目標値	100	100	100	100	100	100	%
		実績値		99.7	100	100	99.8				
		全健診の平均受診率		達成率	99.7%	100.0%	100.0%	99.8%	%		
2		子育てが楽しいと感じる人の割合(3歳児)	83	目標値	83.5	84.5	85.5	86.5	87.5	87.5	%
		実績値		82.2	81.3	84.2	83.2				
		3歳82.5%(R1)		達成率	98.4%	96.2%	98.5%	96.2%	%		
3		(参考)乳児一般健康診 査受診者数	213	目標値						-	人
		実績値		172	163	123	146				
		9-10か月児健診受診者		達成率	%	%	%	%	%		
4				目標値							
		実績値									
				達成率	%	%	%	%	%		

## 6. その他特記事項

乳児期における先天性股関節脱臼等の早期発見を目的として、令和6年4月から新規事業として、エコー検査を取り入れた検診を実施するための体制整備を行いました。

## 7. 事前評価（担当課評価）

事業目的の達成に向け、解決しなければならない問題	令和4年度の健診受診率(4か月児、1歳6か月児、3歳児)は100%であり、対象の乳幼児全員の健康及び成長発達の状況を把握できています。保護者の育児不安の軽減につながる相談支援や健康教育の充実を図る必要があります。
上記の問題を解決するための方策、取り組むこと（課題）	高い受診率を維持するため、未受診者勧奨を継続します。乳幼児健診は、発育発達の面だけでなく虐待予防の視点でのアプローチも重要です。保護者に寄り添う相談支援や健康教育の充実のため、多職種での連携を強め、従事者の相談技術等の向上のための研修実施に取り組みます。
関連施策	施策のどこに貢献するか
3-2-1 健康・福祉 子育て支援	乳幼児健診の場で、定期的に子どもの成長発達を確認し、保護者に寄り添う相談支援を行うことが、育児不安の軽減及び子育て世代の孤立を予防し、切れ目のない母子保健対策の充実に貢献します。

## 8. 事務事業の実績と成果

実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児一般健康診査 ・4か月児 12回 126人 ・1歳6か月児 12回 141人 ・2歳児 12回 142人 ・3歳児 12回 173人</li> <li>○乳幼児1か月健診(償還払) 108件、助成額 386千円</li> <li>○新生児聴覚検査(償還払) 88件、助成額 671千円</li> <li>○乳幼児一般健康診査(医療機関委託) 146名</li> <li>○乳幼児精密検査(医療機関委託) ・乳児 13人 ・1歳6か月児 5人 ・3歳児 35人</li> </ul>
成果	<p>乳幼児健診を通じて、乳幼児の健康管理及び健康増進を図り、子どもの成長段階に応じた育児支援を行い、育児不安の軽減を図りました。</p> <p>乳児期における先天性股関節脱臼等の早期発見を目的として、エコー検査を取り入れた検診を令和6年4月から実施しています。令和6年度は8人が要精密検査となり、早期発見の機会となっています。</p>

## 9. 事後評価（担当課評価）

施策への貢献度	関連施策名	貢献度評価	評価理由（施策に対してどのように貢献したか）	
	3-2-1 健康・福祉	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	子どものすこやかな成長発達の確認を行うことで、疾病の早期発見、早期療育が可能になります。
	子育て支援			
		高い やや高い やや低い 低い		
	高い やや高い やや低い 低い			
事業の達成度	達成度評価		評価理由（指標の達成状況・成果等）	
	<b>B</b>	S：目標超過達成 A：目標達成 B：相当程度進展あり C：進展が大きくない D：目標に向かっていない	健診受診率が目標値には届かないものの、未受診者も含めて対象となっている乳幼児の健康状態や世帯の子育ての状況を確認することが出来ました。	
事業の課題又は今後の方向性	子どもの順調な発育発達が促されるよう子育て支援の場として充実を図っていきます。令和6年から国の「すこやか親子21」第三次計画が開始され、育てにくさを感じる親に寄り添う支援や、妊娠期からの児童虐待防止対策といった重点課題が示されています。これらの達成に向けて乳幼児健診事業を実施していきます。			
外部評価	乳幼児健診は、子どもの健康管理と育児支援により、育児不安の軽減に寄与しました。受診率の高さと、先天性股関節脱臼の早期発見に向けたエコー検査を新たに導入したことは専門職の連携による充実した取り組みがされているものと評価します。核家族化への配慮も含め、今後も妊娠期からの切れ目のない支援を継続してください。			



教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び  
評価の結果に関する報告書（令和6年度分）

発行 令和7年 11月

編集 魚沼市教育委員会

〒946-8601 新潟県魚沼市小出島 910 番地

TEL 025-793-7452 FAX 025-792-1261

URL <https://www.city.uonuma.niigata.jp/>